■今月の特選句

2014年5月号

急峻に膝のがくんと山笑ふ　八洲忙閑

「膝笑ふ」は夏の季語・登山の傍題ですと、嘘つきたくなるほど巧い取り合せ。「笑ふなと膝諌めれば山笑ふ」「山笑ふ膝の持ち主べそかき」。

襟足のマークを隠す春ショール　田村米生

「秘めごとの証拠を隠し春ショール」ですね。しかし、証拠を残すようでは恋の道の修業も道半ばというところ。「薄暑にはタオルを首に巻きますか」。

増税の前に投句や三月尽　原田　曄

消費税の上がる前に投句して、はがき代を節約。しかし、節約も二、三か月の間のこと。直ぐに元に戻る。「四五カ月まとめて投句三月尽」もいいね。

永田町周辺年中万愚節　横山喜三郎

万愚節は四月の季語ですが、永田町では「年中」ですか。「万愚節だけ正直を永田町」「万愚節ことに大ウソ永田町」「国民を万愚と見立て永田町」。

大嘘寸前にして有耶無耶に　加藤　賢

大嘘を堪えるのは大変。有耶無耶とは巧い表現。「有耶無耶の表現吾は羨むや」「嘘して出来た一句が嘘の句」「同じ句が次々嘘とまらない」。

甘いもの見せると動く万歩計　齋藤八兵衛

この句には季語がありませんが、滑稽を評価して特選にしました。「甘いもの欲しいと拗ねる万歩計」「ダイエットすると喜び体重計」は如何？

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

ガシガシの音も目刺の味のうち　門屋　定
・・・穴だけの目に睨まれて食ふ

車中でのメークで美女に四月馬鹿　ひがし愛
・・・ルージュはみ出し口裂け女

持主のわからぬおなら四月馬鹿　小林英昭
・・・落した奴に拾わせなさい

咎なくて泥吐かされる蜆貝　都吐夢
・・・鮑時どき相思相愛

偏差値の低さは言はず入学す　越前春生
・・・積んだお金の高さも言へず

春愁や鍵の数だけドアがある　稲沢進一
・・・豪邸ならば愁ひは不要

増税は津津浦浦まで四月馬鹿　奥脇弘久
・・・万愚あまねく泣き寝入りして

花筏徒党を組んで堰越ゆる　笠　政人
・・・水面に刺青ヤクザめきたる

寝食は忘れておらず恋の猫　金澤　健
・・・そこらあたりがヒトとの違ひ

大阪の独り相撲は橋の下　森　要
・・・維新の威信褪せに褪せたり

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

夢と消ゆ万能細胞かすみ草　百千草
・・・藪の中なる真贋論争

殺してもぬけぬけ春の欠伸出る　麻生やよひ
・・・その根性を浪人生に

赤白黄くり返してるチューリップ　藤森荘吉
・・・育てる人もマンネリ好きで

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	人の世の不条理怒る四月馬鹿	青木輝子
	四月馬鹿ストレスになる消費税	青木輝子
【佳作】	買いだめし忘れてしまう四月馬鹿	青木輝子
	花筏岸から岸へ橋となり	青山桂一
	満開の桜の下にお礼肥	青山桂一
【佳作】	雑草といふ草あらず下萌ゆる	青山桂一
	春雪を浴びて動じぬ鴉どち	秋月裕子
	のろのろと春風にのり囲碁を打つ	秋月裕子
【佳作】	桜餅丸く修めし期末かな	秋月裕子
【佳作】	鳥帰る体内時計の狂ひなく	麻生やよひ
	春闘の行列肩身の狭さうに	麻生やよひ
【佳作】	卒業証書丸めて覗くわが未来	有吉堅二
	野仏の涙ぼろぼろ花粉症	有吉堅二
	春や春鸚哥の接吻（くちづけ）激しかりけり	有吉堅二
【佳作】	暮の春寝釈迦の如く家に在り	飯塚ひろし
	太股を隠して余る春帽子	飯塚ひろし
	陰に干す尼の下穿き豆の花	飯塚ひろし
	二の腕のあらはになるや衣替へ	井口夏子
	電子音鳴らしてずぼら五月来る	井口夏子
【佳作】	氷水舌を見せあふ姉妹かな	井口夏子
	婚活の出合い頭や元夫婦	池田亮二
【佳作】	鳴き下手うぐいす雀の学校へまぎれこみ	池田亮二
	クリニック春季腰痛友の会	伊地知寛
【佳作】	気まじめな友をからかふ亀の声	伊地知寛
	歯科医師の差し歯ぐらつく鮑刺	伊地知寛
	補聴器替え騒音増えて山笑う	伊藤慈秀
	土筆摘み童子に還る妻いとし	伊藤慈秀
【佳作】	杖二本リハビリ歩きもスキー心地	伊藤慈秀
	天国へ行くと言い張る遍路ゐて	伊藤浩睦
【佳作】	物の芽に絡む思惑ある売地	伊藤浩睦
	春の宵政談いつか猥談に	伊藤浩睦

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	白菜のふと節約の鍋となる	稲沢進一
	日脚伸ぶ家がだんだん遠くなる	稲沢進一
	何事も待つのがよろし桜咲く	井野ひろみ
	パソコンで写経書きもす遍路かな	井野ひろみ
【佳作】	薇や伸びて鎌首もたげをり	井野ひろみ
	春霞かまどの煙かスモッグか	入江澄泉
	つくしから胞子の坊や踊りだす	入江澄泉
【佳作】	「寒いね」に「暑いわ」という寒さかな	入江澄泉
	困りもの春の小川に外国種	上山美穂
	アライグマまゆそりすぎて笑ひぐま	上山美穂
【佳作】	シャボン玉ふくれっ面を乗せて舞ふ	上山美穂
	お遍路の善根宿に阿弥陀仏	氏家頼一
【佳作】	タッチしてスイカで出るや初夏の駅	氏家頼一
	木の瘤を撫で撫でもして子供の日	氏家頼一
	そよ風に揺らげば白し花なずな	梅岡菊子
	花おぼろその夜のにぶき燈に浮かび	梅岡菊子
【佳作】	よき風のきて赤いばら白いばら	梅岡菊子
【佳作】	うららかや妻在るごとく無き如く	越前春生
	妻がきた見納めといふ夜の桜	越前春生
【佳作】	わけもなくさくらは櫻意地を張る	奥脇弘久
	紫木蓮大正ロマンの乙女たち	奥脇弘久
	春の昼宙ぶらりんの手長猿	笠　政人
【佳作】	惚けもせで長き生命のボケの花	笠　政人
【佳作】	ソッポ向き咲く水仙の自己主張	加藤澄子
	お喋りや青麦畑の雀たち	加藤澄子
	お豆腐を掌で切り水ぬるむ	加藤澄子
	年取って木瓜の緋色の懐しき	加藤　賢
【佳作】	豆打たれ鬼の面から眼が笑ふ	加藤　賢
【佳作】	トラックター音忙しき春田かな	門屋　定
	眺めれば山から山に春が来た	門屋　定
【佳作】	春風とともに説教耳を去る	金澤　健
	見なかったことにしておく春の夢	金澤　健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	犬ふぐりとは気の毒な花の名よ	川島智子
	家電器に指示され動く遅日かな	川島智子
【佳作】	花よりも目立つ真っ赤な青木の実	川島智子
	固まって動くは新入社員かな	菅野あたる
【佳作】	栄転も左遷も知らず昼蛙	菅野あたる
	ビル風の大本ひとつ花散らす	菅野あたる
	薄氷のところどころは厚氷	久我正明
	佐保姫の雑な化粧やはげかかる	久我正明
【佳作】	ためらわずホテルに入る恋の猫	久我正明
	女々しくてめめしき撥や花薺	工藤泰子
	啓蟄のぬーと絞れるチューブかな	工藤泰子
【佳作】	山笑ふ寝釈迦のやうに寝てみれば	工藤泰子
【佳作】	スカートをストーカーして春一番	黒田忠一
	四月馬鹿上野は今も終着駅	黒田忠一
	花は葉に五十年ぶりの同窓会	小泉花子
【佳作】	かかと上げ五月五日の背くらべ	小泉花子
	紅の色カップに残し春愁ひ	小泉花子
	涅槃会のあとの宴に三味の音	小林英昭
【佳作】	春愁も味のよろしき傷みかけ	小林英昭
【佳作】	異国語と思っていたら造語とは	齋藤八兵衛
	国県市角突き合わせどうなるの	齋藤八兵衛
	新入生珍名まどふ教師かな	酒井鹿洋
	真なり八パーセント四月馬鹿	酒井鹿洋
【佳作】	良き人は先に逝くなり春一番	酒井鹿洋
	梅の花お先にどうぞ春化粧	佐藤義子
【佳作】	花冷えに懐炉片手に花見かな	佐藤義子
	オムツ取りお尻の青みいつ消える	佐藤義子
	還暦の同窓会より五月会	佐野萬里子
	銀杏の芽天に向いて力溜む	佐野萬里子
【佳作】	血糖値気にしていても桜餅	佐野萬里子
	賞ひとつとってそれきり亀鳴けり	下嶋四万歩
【佳作】	津波忌や一段高き誤字の跡	下嶋四万歩

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	母が食べ子が目で食べる櫻餅	下嶋四万歩
	くつさめの顔を隠せり官能本	壽命秀次
	麦踏みの帰りは大股歩きかな	壽命秀次
【佳作】	頻尿を眠らぬ雛に監視され	壽命秀次
【佳作】	なんとなく花の下にもある上座	白井道義
	春風邪は有給休暇取る手立て	白井道義
	指折りし十七音や長閑なる	白井道義
【佳作】	偶数で数えられてるツアー客	鈴木和枝
	シルバー席ひとり分でもいいですか	鈴木和枝
	三寒四温　筍今頃ジャンケンか	鈴木和枝
【佳作】	風光り資料一枚辞書調べ	鈴木哲也
	春の風ドーナツ食べて勉学し	鈴木哲也
	一つ書き祭り参加の春の風	鈴木哲也
【佳作】	見失う目薬の木や春霞	髙田敏男
	真っ当に生きて泥浴び鯰五郎	髙田敏男
	遅刻かな末は大物新社員	髙田敏男
	花吹雪とともに去ればよいものを	高橋きのこ
	せめてお足もう少し出して蝌蚪のごと	高橋きのこ
【佳作】	駄々こねる男はみんないぬふぐり	高橋きのこ
	晴舞台水面にうつし花筏	高橋マキコ
【佳作】	花見酒今年も飲めずじまいなり	高橋マキコ
	オレンジに光り深夜の夜桜は	高橋マキコ
	立ち退きを迫られてゐる五段雛	高橋素子
	摩天楼よりはるかかすかに花の雲	高橋素子
【佳作】	啓蟄の夜具や蛻になってゐる	高橋素子
	山すその何かふんはり花の帯	田中章子
	おろろろんゆがんで映るおぼろ月	田中章子
【佳作】	飯蛸も一人前に墨を吐き	田中章子
	なんとなく梅見どころを行きにけり	田中　勇
	擬人化の記憶術のすべやうらら	田中　勇
【佳作】	座禅草自己催眠の安らかむ	田中　勇
【佳作】	冬日にも傘を差しをりヅカガール	田中早苗
	うごめくものちらりほらりと破蓮	田中早苗

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	口遊ぶシャンソン山はガハハハハ	田中早苗
	胸の内打ち明けてゐる春の夢	田村米生
【佳作】	突っ掛けに左右のしるし山笑ふ	田村米生
	エイプリルフールで許してもらいたし	津田このみ
【佳作】	四月馬鹿と云ひて話を取り上げず	津田このみ
	黄砂来て新築タワー隠しけり	津田このみ
【佳作】	風生の桜のシャワーを浴びている	土屋泰山
	フレンチで恩師のお祝ひ春の宵	土屋泰山
	木蓮の花びらダンス赤提灯	土屋泰山
【佳作】	本業は何曲水の宴の人	都吐夢
	頭振る縦横斜め四月馬鹿	都吐夢
【佳作】	短命の桜餅売る長命寺	飛田正勝
	長らへて恥持て余す兼好忌	飛田正勝
	どの経も有り難過ぎて灌仏会	飛田正勝
	芍薬の夜なればこそ母訪はな	永島董玉
	皐月富士大海原に小さく泛(う)く	永島董玉
【佳作】	鯉幟目玉一つに畳まれて	永島董玉
【佳作】	エープリルフール買えば貰える消費税	西をさむ
	内の子の末は文士か入学式	西をさむ
	浴びるならお酒がよろし花祭	西をさむ
	待ちわびて山爆笑のお城かな	花岡直樹
【佳作】	鯉のぼり風食べ過ぎてメタボ腹	花岡直樹
	新緑と彩度を競う空の青	花岡直樹
	四月馬鹿マック食ふべく頤開く	原田　曄
【佳作】	こうるさき携帯電話霾晦	原田　曄
	目溢しの蕨と言へど掌に余る	ひがし愛
【佳作】	特選と言はれてみたい万愚節	ひがし愛
	啓蟄や老人ホームに俳句会	久松久子
【佳作】	甲羅干す亀も装ふ花衣	久松久子
	武家窓の下に筍売られをり	久松久子
	告白の小道具となり飛花落花	日根野聖子
	スカートの脚急ぎ行く花の冷	日根野聖子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	戸や窓や隙間の好きな春の塵	日根野聖子
	Gパンの膝ほころびや万愚節	藤岡蒼樹
	河豚の口連凧上昇気流吸ふ	藤岡蒼樹
【佳作】	落第の惰性つづきの三浪や	藤岡蒼樹
	つちふるや鼻毛が守る我が身かな	藤森荘吉
【佳作】	山笑ふ山の上では城笑ふ	藤森荘吉
	おぼろ月「春雨」を舞ふ八十の宴	藤原セツ子
	まだ何かできさうな青いぬふぐり	藤原セツ子
【佳作】	その背なに花びらを乗せ猫走る	藤原セツ子
	見においで二十も咲いた石楠花を	松井寿子
【佳作】	花筵近況報告乱れ飛ぶ	松井寿子
	直立をして黒いスーツの新社員	松井寿子
	春泥の先のポスター熟女笑む	松井まさし
【佳作】	遠足の列皆野仏の頭を撫でる	松井まさし
	交換日記の相手は婆や春うれひ	松井まさし
【佳作】	意味もなく蛙とびこむ汚染水	松尾軍治
	春場所や髷結へなくも人気者	松尾軍治
	孕み猫化け猫如く手足なめ	松尾軍治
	春寒し国泥棒に三分の理	丸山紘一
【佳作】	春の海不明機飲みて澄ましをり	丸山紘一
	アルミ貨も主役となりぬ春財布	丸山紘一
	にょきにょきと森羅万象背伸びする	三橋百笑
	大ごとだ工事現場に小鳥の巣	三橋百笑
【佳作】	美容院春旅情報満載や	三橋百笑
【佳作】	糸ざくら雨滴それぞれ刻違へ	宮森　輝
	花しぐれ入山許すバキューム車	宮森　輝
	花霞死後の話をたんたんと	宮森　輝
【佳作】	おせっかい一字違えばあたたかし	百千草
	増税の四月来山は動かざる	百千草
	ジョーカーの笑ふ増税春の鬱	森岡香代子
	薔薇の芽やうふふふふふふ一人言	森岡香代子
【佳作】	前髪は真一文字入学児	森岡香代子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	モンゴルの力士が支える国技かな	森　要
	花よりも団子に寿司に酒肴	森　要
【佳作】	親は子に貢ぐものなり竹の秋	八木　健
	再会のあるやも知れず別れ霜	八木　健
	その蕊で庭汚しきり桜の木	八木　健
【佳作】	病歴を鼻にかけをり四月馬鹿	八洲忙閑
	海笑ふことのなかりて万愚節	八洲忙閑
	あの世ではお友達から彼岸入	柳　紅生
【佳作】	窓際に浸かり通しの水中花	柳　紅生
	新社員宇宙遊泳なるここち	柳　紅生
	猫痙攣画面「ひばり」に猛突進	柳澤京子
	杉花粉今だ涙やゲホゲホと	柳澤京子
【佳作】	食細しサプリメントに頼る春	柳澤京子
【佳作】	木の内に春かくまひて椿てふ	山下正純
	思わぬは石とも難し花心	山下正純
	清心に毒を湛ふる水仙花	山下正純
【佳作】	春うらら背なにむずかる子を負へど	山本けい子
	電車も徐行宇和の盆地は春の霧	山本けい子
	法螺貝の音たてばらの芽の出づる	山本けい子
	画用紙にいろんな色に咲くさくら	山本　賜
	夏隣首の体操苦手です	山本　賜
【佳作】	窓口に老眼鏡とバラの花	山本　賜
【佳作】	落ちこぼれそうでこぼれず卒業す	横山喜三郎
	鶯に鶯くずれのさばれる	横山喜三郎
	ごちゃごちゃと喋るもたのし桜餅	渡辺さだを
	すみれ咲き卒園の児ら姦しく	渡辺さだを
【佳作】	塗り替へしベランダ汚す花吹雪	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。